

中2社会科 「3つの見届ける」

単元名「日清・日露戦争と近代産業」

単元の指導計画

単元を貫く課題 「日本は、どのようにして不平等条約を改正したのか」					
第1時	第2時	第3時	第4時	第5時	第6時
不平等条約改正への歩みを調べ、列強の植民地獲得が進む中、日本の国際的地位の向上への大きな流れが分かる。	日清戦争後の様子を調べ、勝利した日本が軍力を強める一方、三国干渉によりロシアへの対抗心が高まったことが分かる。	日本がロシアと戦った理由を考え、日本のアジアでの勢力を守るとともに、国際的地位を高めようとしたことが分かる。	列強に対抗する韓国や中国の様子を調べ、日本の韓国植民地支配や満州進出、中華民国が建国されたことが分かる。	綿糸の生産量が増加する理由を考え、産業が発展する背景には、労働者や小作人の厳しい労働があったことが分かる。	明治期の文化を調べ、教育の普及と共に欧米の文化を吸収し近代文化が形成されたことが分かる。

第3時 「日露戦争」

ねらい

日本がロシアと戦った理由を考えるを通して、賠償金や米英の支援で高めた軍力で、ロシアの進出を抑え、アジアでの勢力を守ろうとしたことに気付き、日露戦争の勝利が、国際的地位を高めるために必要であったことが分かる。

学習活動

1. 日露の勢力範囲や軍力から学習課題をつくる。
 - ・ロシアは、勢力範囲が広く、軍力も整っている。
 - ・戦ったとしても負けそうだ。

日本が、ロシアと力の差があるにもかかわらず、列強のロシアと戦ったのはなぜだろう。

2. 予想をもとに追究の見通しをもつ。
3. 資料を活用して考えをつくり、交流する。
 - 【日本の軍力】
 - ・日英同盟を結び、米英から戦費を調達していたから
 - ・下関条約の賠償金をもとに軍力を高めていたから
 - 【国民の意識】
 - ・三国干渉により国民の対露意識が高まっていたから
 - 【アジアでの勢力争い】
 - ・ロシアが、満州・韓国への進出を強めていたから
 - ・日本は、韓国での優位を確保したいと考えていたから

賠償金や米英の支援で高めた軍力で、ロシアの進出を抑え、日本のアジアでの勢力を守るため。

4. ポーツマス条約をもとに考えを深める。

「日本の得る権益は少なく、国民は納得しないだろうに、ポーツマス条約を結んだのはなぜだろう？」

戦力は限界に達し戦争継続が不可能な中で、戦争の勝利が、列強の仲間入りのために必要だった。

5. 本時のまとめをする。

○実態を見届ける(見極める)

○既習の内容の定着を見届ける。

- ・日本が国際的地位の向上を目指した時代である。
 - ・日清戦争勝利によりアジアでの勢力を拡大した。
- ※前時までの振り返りなどから実態を把握するとともに、定着状況を見届ける。

○授業のねらいを見極める。

日本にとっての日露戦争の意味を、アジアでの勢力と日本の国際的地位の向上との関連から考えることをねらいとする。

○学習状況を見届ける

○予想での見方や考え方を見届ける。

- ・課題についての予想を挙手により確かめ、導入の時点での考えを見届ける。

○個人追究での見方や考え方を見届ける。

- ・ノートの記述から、課題に対して、どの視点から考えているかを見届ける。
- ※事実のみを書いている生徒には、読み取った事実を課題とつなげて考えるよう支援する。

○交流前半で見方や考え方の広がりを見届ける。

- ・「軍力」「国民の意識」「アジアでの勢力争い」の関連を自分の言葉で説明できるかを見届ける。

○交流後半での見方や考え方の深まりを見届ける。

- ・「アジアでの勢力争い」だけでなく「国際的地位の向上」を目指した時代背景とも関連させて考えを深めているかを発言などから見届ける。

○定着状況を見届ける

○本時では、7分程度の時間を確保し、課題についてまとめさせることで定着を見届ける。

- ・課題について、「アジアでの勢力」「国際的地位の向上」というキーワードを使って、ノートにまとめさせる。
- ・ノートにまとめたことを、ペアで伝え合う場を設定し、自分の言葉で説明できるかを見届ける。

日本が列強のロシアと戦った理由は、下関条約の賠償金や米英の支援で高めた軍力で、ロシアの進出を抑え、日本のアジアでの勢力を守るとともに、戦争の勝利によって、列強の一員としての国際的地位の向上を目指したからだと分かった。